



第一三共エスファの義若博人社長は、このほど開催されたCPhIジャパンで講演し、日本のジェネリック医薬品(後発薬)市場が数量シェア80%を実現するための課題などを話した。高い数値目標や使用促進策などを背景に、後発薬業界が「今まで

国際医薬品原料・中間体展
CPhI 講演

は脇役だったのが、今また「さりとて真ん中にきている」と期待しつつも、80%目標の実現には医療現場からの根強い不安を払拭す

後発薬シェア80%実現▶▶▶ 根強い不安の解消課題

るような取り組みが重要との考えを示した。

後発薬の数量シェアを来年末までに70%、2018~20年度の早い時期に80%以上とする目標について、義若社長は「現行制度で達成することが重要」を強調し、現在の仕組みで達成できなければ、さらなる薬価引き下げなど追加の促進策が行われる可能性を示唆した。同社が薬剤師を対象に行った調査によると、シェア80%を達成できる可能性が「やや低い・低い・非常に低い」と回答した。薬剤師が約4割を占めた。後発薬を希望しない患者がいること、後発薬に不安を感じる患者や医師がいること、後発薬に切り替へにくい疾患領域が存在することなどが主な理由という。先発薬と比較した効果・安全性、安定供給への不安について「後発薬各社が努力してかなり改善はしている」もの

武田テバ参入「大歓迎」/AGの重要性高まる

の、シェア80%達成にはこうした不安を払拭していく取り組みが重要とした。

武田薬品工業とイスラエルのテバ・ファーマスチーカル・インダストリーズが日本の長期収載品・後発薬事業で提携したことは「後発薬業界に大きな影響を与える」とし、「個人的には、後発薬市場にタケダ・フレンドが入ってくることは大歓迎する」。業界全体の底上げになる」と期待を示した。

原薬、添加剤、製法などが先発薬と同じで、先発薬メーカー公認の後発薬「オーソライズド・ジェネリック(AG)」の重要性も訴えた。先発薬と同じであることや、医師・患者などに説明しやすい後発薬としてニーズは高いとみており、「AGがすべて良いとは思わないが、今後はAGの意義がさらに高まっていくのでは」と話した。第一三共エスファは、第一三共本体が販売している抗生物質「クラビット」のAGを販売している。同剤の場合、国内の大学病院128施設中79施設でAGが採用されており、後発薬を採用している施設のなかでは9割以上を占めるという。